

## いつもお世話になっています「加古川の鉄橋」



夏休み中、旅行や帰省、遠征などで、学期中より鉄道を利用する機会が多いのではないのでしょうか？加古川市内では、加古川に4本の鉄道橋梁が架かっています。北から見ていきましょう。

JR加古川線の国包鉄橋は、1913(大正2)年架橋(約320m)。橋桁部分は1905(明治38)年の製造で、加古川舟運の代替に敷設された播州鉄道(1943(昭和18)年に国鉄加古川線へ)開通時に架けられた、歴史ある鉄橋です。レンガ造りの橋脚に歴史が感じられ、市の観光スポットの1つになっています。



現在のJR山陽線の鉄橋(約410m)は、2003(平成15)年完成。加古川～姫路間を結ぶ旅客・輸送の大動脈です。元の鉄橋は1890(明治23)年建設ですが、治水等の問題から、1995(平成7)年からの工事で、橋桁数を減らし(18→5)、橋梁の高さを増した(1.3m増)現在の形になりました。また、橋桁も細長い部材を三角形に繋いで強度を得るトラス構造に変わりました。



山陽新幹線の橋脚は、1970(昭和45)年完成(約500m)。川の上の部分は複線ではなく単線2本で、新幹線の鉄橋としては珍しい構造だそうです。また、防音壁がないので走る列車を丸々撮影でき、西側河川敷の鉄橋の南には駐車場や遊歩道があって、新幹線の撮影ポイントとしても知られているようです。



山陽電鉄の橋梁は1922(大正11)年の建築。山陽電車鉄橋の中で最長(約414m)だそうです。かつては、これと並んで播州鉄道(のち国鉄)の橋梁も存在しましたが、1984(昭和59)年の高砂線廃止等に伴い、撤去されました。



- ※ 写真は、インターネット上の素材(有料指定・転載禁止指定なし)を転載
- ※ 鉄橋の長さや工事等に関しては、国土交通省作成資料等を参照